

【鶴】ぬえ

楽道入造、覚々斎原叟銘の赤楽茶碗に〈鶴〉があります。〈鶴〉にもつくります。

ノンコウ七種の一つですが、ノンコウの全ての作品の中でも佳作、少なくとも赤楽茶碗の中では最高の出来と私は思っています。私が実見した茶碗の中では喜左衛門井戸と同様に何か超自然的力が憑いたような迫力があり、圧倒的な存在感のある茶碗です。

黒雲のような刷毛目の景色からついた銘でしょう。茶碗の景色が銘にみごとに適っています。

鶴とは「トラツグミ」というスズメ目ヒタキ科の鳥の異名です。黄褐色に黒斑があり全長 30cm 位で森に住み、ミミズ・幼虫・木の実などを食べるそうです。

<http://micyanyoshi.hp.infoseek.co.jp/toratugumi.htm>

鶴の名を世に知らしめたのは実際のトラツグミではなく、『平家物語』巻第四に登場する怪鳥でしょう。

平安後期、近衛天皇(在位 1142 年～1155 年)の代、毎夜宮中に鶴という奇怪な獣が出没し帝を悩ました。帝は源頼政(1104～1180)を召して鶴退治を命じます。夜中、現れた鶴に頼政は矢を放ちみごと討ち果たします。

この時、左大臣は

- ・時鳥名をも雲居にあぐるかな(時鳥が鳴くように頼政は宮中で名をあげたな)
- と詠んで功を称えましたが、頼政は驕れることなく、
- ・弓はり月のいるにまかせて(弓張月の入るのに任せて、弓まかせのまぐれ当りです)
- と謙虚に詠み返し、更に諸侯を感心させたと『平家物語』は描いています。

鶴の容姿は『平家物語』には「頭は猿 むくろは狸 尾はくちなは 手足は虎」、『源平盛衰記』には「頭は猿 背は虎 尾は狐 足は狸」となっています。

史実としての源頼政はいかなる人物だったのでしょうか。

父は源仲政、母は藤原友実の娘。摂津源氏の嫡流、渡辺党の棟梁。保元の乱では後白河天皇方につき、平治の乱(1159)では源義朝方についた後、平清盛側に味方しました。その後、彼は平家打倒の画策に奔走します。

平家と対立した後白河法皇は清盛に幽閉されますが、法皇の意思を汲んだ頼政は治承四年、後白河法皇の子の以仁王を説得し平家打倒の令旨を取り付け諸国の武将に届けます。しかし、平家側に陰謀が発覚し都落、興福寺僧兵を頼り奈良へ向かう途中、平家の追撃を受け平等院にて自刃となりました。

企ては失敗に終わりますが、このときの令旨が木曾義仲、源頼朝などに平家打倒の挙兵を促すこととなったのです。また、頼政は武勇のみならず『新古今集』『詞花集』『千載集』に入選するほどの歌人でもありました。

源氏の中で最も人気が高い英雄といえば義経、次いで頼朝であることは異論のないところでしょう。更にその次を求めれば頼政なのではないでしょうか。『平家物語』や謡曲『頼朝』に描かれ

た彼には武勇と教養、正義と悲劇と日本人が好む英雄の要素のすべてが備わっています。
世阿弥作、謡曲『鶴』は頼政の英雄伝とは切り口を異にし、退治された鶴の立場から悲哀を漂わせる曲です。「ぬえ鳥の」は「うらなき」「片恋」「のどよふ」など悲哀を含む言葉の枕詞でもあります。とらつぐみが夜ヒーヒーと寂しげな声で鳴くところから想を得たのかもしれませんが。鶴は帝を悩ます怪鳥でありながら悲しみを表す鳥でもあるのです。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~